

第61期 株主通信

2018年2月1日～2019年1月31日



株主の皆様におかれましては、日ごろより格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

代表取締役社長 高橋 貴志

■第61期を振り返って

当連結会計年度(2018年2月1日～2019年1月31日)における我が国経済は、企業収益や雇用環境の改善効果もあり、緩やかな回復基調が継続しました。

当ディスプレイ業界の事業環境につきましても、公共投資が底堅く推移し、企業の設備投資にも持ち直しの動きがみられる等、引き続き堅調に推移しました。

このような状況のもと当社グループは、中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)に基づき、市場の活性化が見込まれる中期経営計画期間中の需要増加を確実に取り込むとともに、継続的な成長と更なる企業価値の向上を目標に事業活動を展開してまいりました。

この結果、当連結会計年度の売上高は826億77百万円(前連結会計年度比10.0%増)となり、営業利益は50億25百万円(前連結会計年度比9.5%増)、経常利益は52億19百万円(前連結会計年度比10.1%増)となりました。なお、投資有価証券売却益および関係会社株式売却益を計上したこと等により、親会社株主に帰属する当期純利益は42億6百万円(前連結会計年度比30.6%増)となりました。

また、当連結会計年度の受注高は831億73百万円(前連結会計年度比3.3%増)となりました。

■今後の見通しと中期経営計画の進捗

今後の見通しにつきましては、雇用および所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあり、緩やかな景気回復が期待されます。

当社グループを取り巻く環境につきましても、人手不足に伴う外注コストの増加等が懸念されるものの、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた諸施設の整備や都市再開発案件の増加、大阪・関西万博の開催決定、観光立国を目指した需要の増加等、明るさも見られ、引き続き改善が期待されます。

なお、当社は中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)で、連結ROE10%以上、営業利益率7%を目標に掲げております。

中期経営計画の進捗および業績目標については下表のとおりです。

中期経営計画(2019年1月期～2021年1月期)						(百万円)
売上高	営業利益	営業利益率(%)	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	ROE(%)	
2019年1月期実績						
82,677	5,025	6.1	5,219	4,206	16.0	
2020年1月期計画						
84,000	5,400	6.4	5,500	3,750	13.5	
2021年1月期計画						
87,500	6,100	7.0	6,200	4,200	14.1	

■配当金について

当社は、連結配当性向50%以上を還元方針として掲げております。

当期の期末配当金につきましては、1株当たり21円とさせていただきます。既にお支払いしております中間配当金(1株当たり17円)を加えた年間配当金は1株当たり38円となります。(連結配当性向は43.5%となりますが、特別利益の要素を除いて50%還元となっております。)

次期の配当予想につきましては、中間配当金1株当たり20円、期末配当金1株当たり20円とし、年間配当金1株当たり40円を計画しております。

株主の皆様におかれましては、今後とも、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

商業その他施設事業

連結売上高 **498億70**百万円(前連結会計年度比 12.8%増)

連結営業利益 **26億48**百万円(前連結会計年度比 4.3%増)

商業その他施設事業においては、市場環境は引き続き良好であり、特にサービス分野(空港関連施設、ホテル、オフィス、テーマパーク等)の新改装案件が堅調に推移したこと等から、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。



城山ホテル鹿児島

チェーンストア事業

連結売上高 **212億34**百万円(前連結会計年度比 8.8%増)

連結営業利益 **14億84**百万円(前連結会計年度比 29.6%増)

チェーンストア事業においては、アパレル分野、飲食店分野、その他専門店分野ともに堅調に推移し、また、習熟度が高まり、収益性も向上したことから、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。



アシックスラン東京丸の内

文化施設事業

連結売上高 **108億84**百万円(前連結会計年度比 0.9%増)

連結営業利益 **6億41**百万円(前連結会計年度比 7.7%減)

文化施設事業においては、公共投資全体が底堅い動きとなっており、前連結会計年度と比較して、大型案件が多かったこと等から、売上高は前連結会計年度を上回りましたが、収益性については前連結会計年度に及ばず、営業利益は前連結会計年度を下回りました。



さいたま市子ども家庭総合センター「ばれっとひろば」

その他

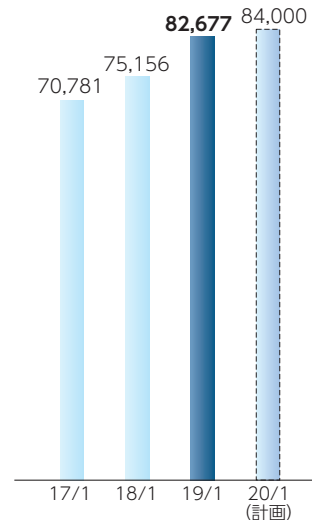
連結売上高 **6億87**百万円(前連結会計年度比 6.5%増)

連結営業利益 **2億39**百万円(前連結会計年度比 16.1%増)

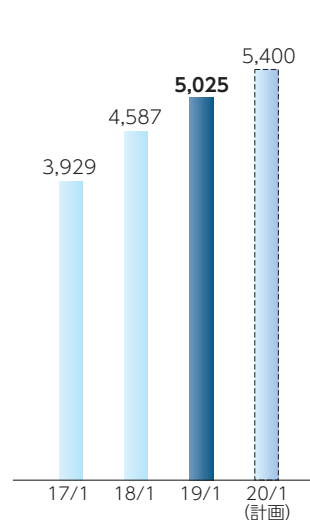
その他においては、ディスプレイ業以外の商業施設の運営管理、事務サービス等が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに前連結会計年度を上回りました。

連結財務ハイライト

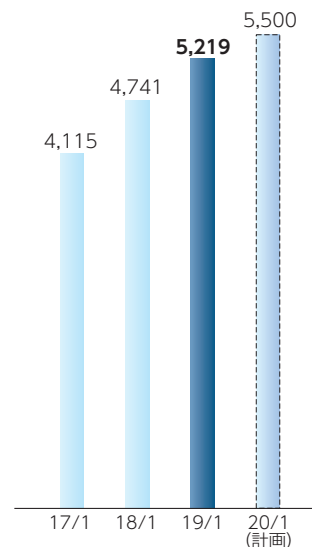
売上高 (単位:百万円)



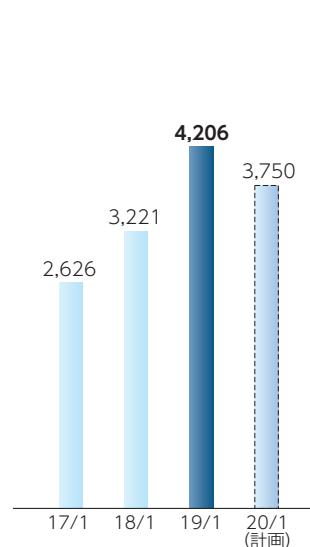
営業利益 (単位:百万円)



経常利益 (単位:百万円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位:百万円)



連結財務諸表

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期末	当期末
	2018年1月31日現在	2019年1月31日現在
流動資産	35,203	36,103
固定資産	8,765	8,165
流動負債	16,901	16,072
固定負債	1,556	1,273
純資産	25,510	26,922
総資産	43,968	44,269

連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2017年2月 1日 至 2018年1月31日	自 2018年2月 1日 至 2019年1月31日
売上高	75,156	82,677
売上原価	61,791	68,513
売上総利益	13,364	14,163
営業利益	4,587	5,025
経常利益	4,741	5,219
親会社株主に帰属する当期純利益	3,221	4,206

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	前期	当期
	自 2017年2月 1日 至 2018年1月31日	自 2018年2月 1日 至 2019年1月31日
営業活動による キャッシュ・フロー	790	4,811
投資活動による キャッシュ・フロー	△526	118
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,099	△2,346
現金及び現金同等物の 期末残高	14,384	16,940

詳細な財務情報は、当社ウェブサイトIR情報をご覧ください。

アドレスはこちら▼

<https://www.tanseisha.co.jp/ir/>

“掛け算”によるブランド体験を実現「セイコードリームスクエア」



創業の地・銀座に作られたセイコーブランドの発信拠点

2018年12月、東京・銀座にセイコーブランドの体験型専門ショップ「セイコードリームスクエア」がオープンしました。全4フロアで構成され、1階は銀座のシンボルである和光の時計塔の内部をイメージしたミュージアムとなっており、大時計のギアを模したオブジェや、時計塔から見下ろした銀座の映像などが流れるモニタが設置されています。また、時代を象徴する商品の展示スペースや、時計職人の実演空間も設けられています。

2階から4階は、主力4ブランドの世界観をテーマにしたショールーム兼ショップで、2階の「プロスペック」のフロアでは、ダイバーズウォッチからインスパイアされた「深海」の世界を表現しました。3階は「ルキア」と「プレザージュ」のフロアで、「ルキア」は日本の繊細な色彩感覚や美意識を、「プレザージュ」は100年を超える機械式時計の伝統を漆や珪瑯(ほうろう)、七宝など匠の技で表現しました。そして4階は、世界初のGPSソーラーウォッチ「アストロン」のフロアで、シックで落ち着いたインテリアの中で、ワンランク上のラグジュアリーな世界観を体験できるようになっています。



設計上の制約の中で、ブランドの世界観を最大限に伝える

最初にセイコーウォッチ(株)様からお話を頂いたのは、2018年の3月でした。同社創業の地である銀座に「セイコーブランドの発信基地を作りたい」というご要望に対して、どのようなコンテンツが相応しいか、セイコーウォッチ(株)様と一緒に検討を重ねていきました。フロア構成については、ブランドごとに独自の世界観を表現し、さらに「セイコー」の歴史と現在を表すミュージアムを設置することで、4ブランドおよびミュージアムの“掛け算”によって「セイコー」全体のコンセプトイメージを表現していくことになりました。そこで、各ブランドのご担当者様と何度も打ち合わせを行い、ブランディングの方向性を綿密に詰めながら、ショップの設計に落とし込んでいきました。ブランドによってコンセプトや考え方が全く異なり、あたかも4つの違った店舗をデザインして作り上げるような感覚でした。

また、改装前の建物は、フロア面積が約15坪ほどで、間口が狭くエレベーターや階段がフロアの奥にあるなど、様々な制約がある中で設計が進められました。縦動線については1階から2階まで上がりやすいように内階段を設置するなど、お客様がスムーズに回遊できるように設計しました。



部門の枠を越えて力を出し合いプロジェクトを完遂

セイコーウォッチ(株)様からは、商品を展示・販売するだけではなく「体験型」施設にしたいとのご希望もありました。そこで、実際に商品を見て、触り、スタッフと直接やり取りしながら買い物ができるような空間を目指すとともに、デジタル技術を活用した「ブランド体験」も用意しました。各フロアにタブレット端末を設置し、検索して気に入った商品の情報を自分のスマートフォンに表示させることができるほか、各階を回遊して「ウォークラリー」をクリアするとスペシャルコンテンツが獲得できるような仕掛けを提案し、実現しました。

実際の施工にあたっては、各階で全くデザインが違いため、材料や工法、施工手順が異なり大変苦労しました。2階の海底を模した壁の制作では、模型製作や3Dデータによる事前検証をした後に、壁面を形成するための型の製作をして品質管理と施工計画をするなど、各階で持てるノウハウを総動員し工夫を凝らしました。タイトなスケジュールの中で各工事パートの工程管理を細かく行い、やるべきことをリスト化して徹底することで乗り切ることができました。

完成後は多くのお客様が訪れ、オープン直後の12月には、一日あたりの来場者数が1,000人を突破し大盛況となりました。また海外からのお客様も多く、日本そして東京の顔である銀座の新しいランドマークとして注目を集めており、当初の目標である「セイコーブランド」の発信基地として確かな一歩を踏み出せたと自負しております。

本プロジェクトは、当社のコミュニケーションスペース事業部・デザインセンターおよびCMIセンターの各部門から、多くのメンバーが参加して進められました。グローバル企業対応のスペシャリストも含め、それぞれが高い専門性を発揮するとともに、部門の垣根を越えて一つの目的のために協力して最後までプロジェクトをやり遂げられたことは、当社にとっても非常に得難い体験であり大きな財産となりました。

プロジェクトに携わったメンバー



(手前から)	上垣内泰輔
デザイナー	沢木 和樹
演出技術	今井 敏二
制作	加納 弘人
営業	渡邊 将之
プランナー	猪瀬 恭志
デザイナー	三宅 恵介
制作	徳川 裕丞
デザイナー	

アート・工芸作品の新たなプラットフォーム「B-OWND」のサービスを開始しました

当社は、ブロックチェーンを活用し、日本のアート・工芸作品を世界に向けて販売・流通が可能な新たなプラットフォーム「B-OWND」(ビーオウンド)のサービス提供を開始しました。



「B-OWND」URL:
https://www.b-ownd.com

アート・工芸作品は、当社の事業である「空間づくり」との親和性が高く、当社が手がけるさまざまな空間に用いられるなど、より良い空間創造に欠かせない重要な役割を担っています。

世界中の人々と日本のアーティストをつなぐプラットフォームの整備に取り組むことで、日本のアート市場を拡大し、アーティスト・工芸家の活動の幅を広げ、日本の文化芸術の振興に貢献します。

女子ラグビー選手 原仁以奈さんを応援しています

当社は多様な人材を活かした、変化に強い組織を目指し、2015年4月に、7人制女子ラグビー選手原仁以奈さんを迎え入れ、多様な働き方の一つの形として、全社で応援しています。原選手が所属する三重の女子ラグビーチーム「PEARLS」(パールズ)は、女子セvens国内



最高峰のサーキット大会「太陽生命ウィメンズセvensシリーズ2018」(主催:公益財団法人日本ラグビーフットボール協会)で、年間総合2位に輝きました。

「ラグビーワールドカップ2019™日本大会」が開催される本年も引き続き、スポーツを通じた社会貢献の一環として、原選手の雇用を支援し、仕事と競技を両立できる環境を提供していきます。

※「デジタル毎日」(https://mainichi.jp/)に、日本ラグビーフットボール協会 専務理事 坂本典幸氏と原選手との対談記事が掲載されています。【対談:ラグビー×丹青社「育み合い」成長し合うアスリートとサポート企業】URL: https://mainichi.jp/sp/tanseisha/

ウェブサイトのご案内

当社のウェブサイトでは株主・投資家の皆様に対して、企業情報や財務情報をはじめとして、積極的に情報開示を行っております。

当社をよりご理解いただくためにも、ぜひご利用ください。

<https://www.tanseisha.co.jp>



会社概要 (2019年1月31日現在)

商号 株式会社丹青社
設立 1959年12月25日
資本金 40億2,675万657円
従業員数 975名(連結:1,234名)

役員 (2019年4月23日現在)

代表取締役会長 青田 嘉光
代表取締役社長 高橋 貴志
取締役常務 徳増 照彦
取締役常務 戸高 久幸
取締役常務 小林 統
取締役 中島 実
取締役 篠原 幾徳
取締役 森永 倫夫

取締役 常勤監査等委員 河原 秀司
社外取締役 監査等委員 松崎也寸志
社外取締役 監査等委員 長谷川 明
社外取締役 監査等委員 新島由未子

株式の状況 (2019年1月31日現在)

株式の総数
発行可能株式総数 187,200,000株
発行済株式総数 48,424,071株
株主数 7,447名
大株主

株主名	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,204千株	12.90%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,143	6.53
丹青社取引先持株会	2,428	5.05
第一生命保険株式会社	1,907	3.96
株式会社三井住友銀行	1,500	3.12
株式会社三菱UFJ銀行	1,482	3.08
日本生命保険相互会社	1,446	3.01
ファンネックス・アセット・マネジメント株式会社	1,430	2.97
丹青社従業員持株会	1,181	2.46
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	914	1.90

※持株比率は、自己株式(316,615株)を除いて算出しております。

株主メモ

事業年度 2月1日から翌年1月31日まで
配当金受領株主確定日 期末配当1月31日/中間配当7月31日
定時株主総会 毎年4月
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 東京都府中市日鋼町1-1
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
Tel.0120-232-711(通話料無料)
同郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場金融商品取引所 東京証券取引所 市場第一部
公告の方法 電子公告により行う
公告掲載URL <https://www.tanseisha.co.jp/>
(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載いたします。)

株主の皆様の声をお聞かせください

下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

<https://www.e-kabunushi.com/>
アクセスコード 9743

いいかぶ

検索

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2か月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます



※本アンケートは、株式会社 a2media(イー・ツー・メディア)の提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。(1809)

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-6779-9487(平日 10:00~17:30)
[e-株主リサーチ事務局] MAIL:info@e-kabunushi.com

撮影:ナカサ&パートナーズ、御園生大地

ここを動かす空間をつくりあげるために。

株式会社 丹青社

〒108-8220 東京都港区港南一丁目2番70号
Tel. 03(6455)8100(代表)
Fax. 03(6455)8220(代表)

